

品川宿 会報 みこしだこ 2017年 新春版

2017年1月発行 第48号

謹賀新年

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
会長 堀江 新三

2016年 交流イベントをふりかえって ～主催・参加者からの声～

◆しながわ運河まつり (2016年4月9・10日)

なぎさの会 佐藤昭彦



沖繩の小さな集落での村祭りに関わった時、舞台上上がる村人達の芸の豊富さと見る側の楽しみ方の上手さに感動しました。戦地で覚えたハーモニカを披露するオジー、涙するオバー。冷やかすニイニイ達、いさめるオットウ。会場全体が笑いに包まれるコミュニケーション。『あれは本家の孫よ～』と老若男女の交流。

「運河まつり」に同じ匂いを感じたのが始まりでした。さすが東京。品川には素晴らしい芸達者が沢山いらっしや、年々舞台が華やぐ中で、最近ではプロの方々にも噂が伝わり「面白いね」と協力してくれるようになりました。近所の公園で、一流の芸に触れられる幸せも感じつつ、これからも皆さんと共に品川らしい、品川ならではの「まつり」を大事にしていきたいと思います。

◆しながわ宿場まつり (2016年9月24・25日)

岸田洋明



私の住む北品川5丁目は品川宿の風情がない再開発地区なのですが、近所のしながわ宿場まつりになぜかこれまで参加していませんでした。ふらっと行けばいいだけなのに、もったいないことをしていました。

2日目は快晴に恵まれ、あちらこちらで美味しそうな屋台が賑わう中、家族連れの旧友にばったり会うという偶然もありました。お祭りの楽しい引力です。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会の後援で不要きものの無料回収をしたところ、1日で150枚以上も集まりました。今はこれらをきもの好きな人に使ってもらったり、品川区の地域振興に役立てるべくアイデアを練っています。

お世話になった方々、ご寄付くださった方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

◆三島宿場まつり活動報告 (2016年11月3日)

東京サラヤ 小野文義



東海道53次(近年57次と言われています)の日本橋を起点に1番目の宿が品川宿。そこから11番目の宿、三島宿(三島市)の「三島宿場まつり」の応援に、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会から6名が品川宿交流館を朝7時に出発しました。

東名高速に入ると渋滞となりましたが、何とか予定時間内に三島に到着。朝11時より品川海苔を販売する出店の準備、すでに会場は人でいっぱいでした。この日は雲が多く富士山は見えずで残念。「品川海苔いかがですか」と声をあげて活動。常連さんも来てくれて何とか目標の売上達成し無事に品川宿へ戻ってきました。

◆第29回 東海道シンポジウム丸子宿大会 (2016年11月5日)

井口勢津子



11月5日(土)静岡市丸子宿で開催されたシンポジウムに初参加しました。品川宿が引越したのではないかと思う程多くの方が参加されていました。

講演はアレックス・カー氏、時間が経過した建造物をどう今に引っ張ってくるか、現代人の私達が居心地よくなければいけないという古民家再生のお話は、とても興味深いものでした。

シンポジウムでは各宿場の皆さんの現状報告と今後の展望について語られました。堀江会長節炸裂です。品川は人も多い、若者もいる、祭り、寺社仏閣など、どれもとても都会でありながら奇跡的に残っている。私は本当に素敵な町に住んでいると思いました。楽

しく生活しようよと話された堀江会長に大賛成！とても面白かったです。

交流会はとる汁で有名な丁子屋さん。夜の丁子屋さんはタイムスリップしたような外観で、味は勿論美味しい。丸子宿の皆さんの温かいお心遣いでますます楽しい会となりました。素晴らしいおもてなしで非常に心地よい時間を過ごせたシンポジウムでした。

◆大磯宿場まつりに参加 (2016年11月6日)

新実正義

今年は東海道シンポジウム丸子大会が開かれた翌日とあって、品川宿から参加するメンバーも限られたなかで、高齢の男性4人で店開きを致しました。天気は朝から久しぶりの快晴。海岸の波の音が聞えてきそうな松並木の道を進むと、神社には大隅さんのノーベル賞を祝う大旗が何本も掲げられています。そう大隅さんは大磯に住んでいたなと思いたし、街の人がどれだけ喜んで、盛りあがっているのか、様子が窺えました。

元々お客さんはリピーターが多いことは感じていましたが、開店早々、海苔三帖のお徳用パックに買いが集中、何人もの女性が手にメモ用紙を持って幾種類か分けて購入され、お支払いは万円札でと言う方が何人もいらっしや。そして開店2時間位でお徳用パックから売り切れ始め、他の商品をお勧めするが、お客のがっかりする姿に、改めて感謝。お聞きするとお友達から頼まれたので売切れないうちに来られたとか。品川海苔を購入するために大勢のお客様が「大磯宿場祭り」に来られていることに感謝、感激。また来年来ますよと、残り荷の少なくなった段ボールの片づけは、心が弾むような感じ。楽しかった。

8月25日(木)26日(金)と東京サラヤ インターンシップの一環として、品川宿周辺のまち歩きを実施。■実施内容として 25日：佐山先生、長谷山様による品川宿周辺の歴史やまちづくりの紹介とまち歩きを実施。 26日は、学生達が感じた品川宿の魅力と、まちづくりへの意見や提案を発表。

■街歩きをしてお感想(参加学生コメント一部) ・1時間ほど歩きましたが今までに経験がないほどたくさんの神社や寺がありと歴史を感じる街でした。旧東海道の石畳のある商店街はまた良い雰囲気です。ただ歩くだけでもホットした感覚が心地よかったです。 ・まち歩きをご案内頂いた際は、とても楽しい時間を過ごさせて頂き、伝統を引き継ぎ、守る品川宿の方々の想いや温かさを感じる事が出来ました。ぜひまた遊びに行きたいです。



◆「大磯宿場祭り」に参加して (2016年11月6日)

乗松隆

晴れて気温もそれ程寒くはなく、まさに絶好のお祭り日和でした。大磯に到着後、早速荷卸しを

品川海苔を陳列し、開始時刻10時より開店しました。参加者は揃いの絆纏をまとい、客の呼び込みを行いました。

人通りも開始早々とても多く、一時期は午前中にも、品物が売り切れるのではないかと思うばかりの賑わいで、2万円相当も海苔を一度に購入される方もおられ、びっくりしました。

お祭りは、着物や絆纏等を装い、いろんな衣装や江戸風の装いにて行列や様々な販売で賑わいました。また、趣向を凝らした「おいらん道中」が企画され、男性が化粧をしたおいらん姿には、その土地の方々の「大磯宿場祭り」を盛り上げようとする意気込みを感じました。このような祭りに楽しく参加出来、品川宿や東海道五十七次の発展に寄与出来ることを大変ありがたく思っております。

◆東京サラヤ インターンシップ「旧東海道品川宿周辺まち歩き活動」報告



8月25日(木)26日(金)と東京サラヤ インターンシップの一環として、品川宿周辺のまち歩きを実施。

■実施内容として 25日：佐山先生、長谷山様による品川宿周辺の歴史やまちづくりの紹介とまち歩きを実施。 26日は、学生達が感じた品川宿の魅力と、まちづくりへの意見や提案を発表。

■街歩きをしてお感想(参加学生コメント一部) ・1時間ほど歩きましたが今までに経験がないほどたくさんの神社や寺がありと歴史を感じる街でした。旧東海道の石畳のある商店街はまた良い雰囲気です。ただ歩くだけでもホットした感覚が心地よかったです。 ・まち歩きをご案内頂いた際は、とても楽しい時間を過ごさせて頂き、伝統を引き継ぎ、守る品川宿の方々の想いや温かさを感じる事が出来ました。ぜひまた遊びに行きたいです。

まちづくり協議会の活動にはいつもご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、2020年の東京オリンピックの話題も、いよいよ現実味を帯びてまいりましたが、品川宿にとって、この国際的なビッグイベントは決して無縁なものではありません。

そのような議論を進めている中



多くの宿場の方々が集まり盛会となった第29回「東海道シンポジウム丸子宿大会」



まちづくり協議会

《運営委員会》

2016年の運営委員会も、毎月20名から30名の参加があり大盛況でした。まち協主催の事業やプロジェクトの議題から始まり、それぞれ持ち寄りの報告や提案、熱いプレゼンテーションが行われます。会議終了後には、希望者で第2ラウンドの懇親会へ、深夜までディープなまちづくりの話題が続きません。

最近の傾向として、新しい高層

マンション(東品川エリア)に関連する事業者さんや、地元の旅行会社、地域活性化に関心のある企業などの新たな参加が多くなっています。また、企業だけではなく、東海七福神を題材にした歌手やロリ鉄アイドルなど、これまでにないインパクトのある参加者も登場しています。

ボランティア活動から事業性の

ある企業活動まで、品川宿という共通のキーワードで集まる人たちの多様さが運営委員会のおもしろさです。

運営委員会は、毎月最終火曜日(原則)21時から品川宿交流館で行われています。「どなたもウェルカム!」どんな提案もオーケーです!」みなさまのご参加をお待ちしております! ◆竹中茂雄



《品川宿交流館》



4月～11月まで延べ約15,000名の来館者を数え、例大祭のある6月、宿場まつりが開催される9月は月あたり3,000を超える方々が交流館を訪れました。昨今のまち歩き人気の中、品川宿に関するガイド資料が少なく、時おり物足りないという声も聞こえる中、ま

ちの有志のサポートを受け品川宿にまつわる資料設置を少しずつですが進めております。

また地域活動の拠点として、月一の映画会「品川宿名画座」、顔の見えるご近所づきあいを目的とした「朝ごはん会」や、「まちの大きな家族」づくりを目指す「晩ごはん

会」、ふれあいの家・おばちゃんちと共催の「ご近所みちあそび」、毎年白熱!感動の「小学校対抗東海道駅伝」の中継地など、まちの皆さんによって有効活用もされ、「交流館」としての役割を果たせた一年だったと思います。

◆和田富士子

《まちの広報部》

「地元にはヘンテコリンな人がたくさんいて、こんな色んなイベントやっぴんだ!」とびっぴらこいたのは、初めてまち協の運営会議に参加した2年ほど前のこと。近所にながらも意外と入ってこない地域情報。品川宿周辺に暮らす、働く、関わる人たちがもっと

まちに参加するきっかけをつくらうと昨年よりスタートしたのが「まちの広報部」活動でした。

Facebookページのリニューアルに参加した2年ほど前のこと。近所にながらも意外と入ってこない地域情報。品川宿周辺に暮らす、働く、関わる人たちがもっと

「品川宿おぼえ帖」のリニューアルと努めてきました。初動としての受け皿は整ってきましたが、情報収集、整理、発信といった運用が追いついていません。是非とも皆さんのお力を貸してください! よろしく願いいたします〜。

◆和田富士子



品川宿見聞録 2016年 part.1

イベント編

《京浜運河エレクトリカルボートパレード》

2016年6月 NPO法人東海道品川宿は、代表理事に大竹幸義氏が就任し新たなスタートを切りました。就任早々ではありましたが、水辺の賑わい創出事業として、8月5日(土)「京浜運河エレクトリカルボートパレード2016」を京浜運河勝島橋周辺にて開催しました。

この地域の特徴的な環境資源である水辺(河川や運河)を活用し、まちの賑わいや観光の魅力を創出するため、また2020東京オリンピックを見据え、競技場等の京浜

運河について周知する活動として、先ずは近隣に住むみなさんに水辺の楽しさを味わってもらいたいと企画しました。

予想を超え来場者も多くにぎわいました。近隣のみなさんにも楽しんでいただけたと思います。準備期間も短い中でしたが、多くの方々にご支援とご協力を頂き、おかげ様で事故もなく無事に終える事が出来ました。

来年以降も継続して開催し、地域振興につながる水辺のイベントになることを願っています。

◆なぎさの会 大澤淳



京浜運河エレクトリカルボートパレード



天王洲キャナルフェス

《天王洲キャナルフェス》

天王洲キャナルフェスは、周辺地域の区民や事業者の皆さまのご理解ご協力のもと、品川・天王洲の観光振興を推進するイベントです。天王洲運河の両岸を会場とし、運河の魅力を体験する「ミニクルーズや渡し舟」、運河沿いのビル壁面に映像投影する「水辺の映画祭」や様々な出店が並ぶ「フードコート&ミニマルシェ」を中心に、生ライブ

や写真展を行うなど、子どもから大人までが皆で水辺のひとときを楽しみプログラムを実施しています。

また、2016年7月の夏フェスでは、港区「東京海洋大学・海の日記念行事」及び「港南チャリティスポーツフェスタ」と連携。同10月の秋フェスでは「しながわ観光フェア」と連携し、周辺地域の賑わいづくりに取り組みました。

◆一般社団法人 天王洲・キャナルサイド活性化協会



第29回「宿駅会議シンポジウム丸子宿大会」

《品川区制70周年記念 しながわ観光フェア》

10月29日(土)・30日(日)に品川区・(一社)しながわ観光協会との共催で品川区制70周年記念しながわ観光フェアが大井町駅前中央通りにて開催されました。

おかげさまで2日間とも品川宿エリアをはじめ各エリア、各種団体、企業、大使館等40ブース以上にご出展いただき、2日間36,000人の来場者で大変賑わいました。ステージでは「しながわ観光パネルディスカッション」をはじめ子ども向けのショーから品川音頭リミックスバージョンのダンス、音楽、能楽まで幅広い演目が繰り広げられました。

ました。

今後、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、東京や品川は観光で盛り上がっていくと思いますが、それに浮かれることなく、アフター五輪の来日旅行者数の落ち込み予想まで見据えた上で、この機運に乗って品川でできる日本や品川の体験メニューの掘り起こしや宿泊施設との連携システム構築等、イベントだけでなく様々な切り口で観光を考えていきたいと考えております。

今回、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会の皆様をはじめ、ご出展いただいた団体・企業の皆様、お手伝いにおいでいただいた皆様、品川区の皆様に対し心から御礼申し上げます。

◆一般社団法人しながわ観光協会 大越章光



《第29回目「宿駅会議シンポジウム丸子宿大会」》

11月5、6日、第29回目となる「宿駅会議シンポジウム丸子宿大会」が開催されました。「静岡を知り、東海道に対してわずかなHOPEが生まれました」という言葉から始まったアレックス・カー氏の講演。そして品川・宮・丸子

宿からそれぞれの代表者が熱い思いを伝え、宿場ごとの取り組みを発表・共有しました。さらに品川・丸子からは、子供への支援活動を行うメンバーも参加。観光面だけでなく、宿場に暮らす住民としてのネットワークも広がり始め



しながわ観光フェア



問屋場



パトロールマラソン(参加自由)



東海道品川宿FC(サッカー・フットサルクラブ)

した。地域を超えた広がりは、丁子屋を会場とした交流会でも！静岡近郊の宿場で活躍する若手世代も加わり、地域はもちろん、世代を超えた交流会となりました。「東海道は生きている！」

かつてつながっていた宿場は、こうした人と人とのつながりによって、再び活気を取り戻していくはず。そんな可能性を、大きなワクワクと共に感じる2日間でした。

◆丁子屋14代目

民泊の動きとしながわの状況

2020年の東京オリンピックに向け、訪日外国人旅客数が2000万人を突破する中、宿場町にも大きな変化が押しよせています。外国人観光案内所「問屋場」を2016年4月にOPENして以降、お客様の動向や近隣の住民からのお困りごとに「宿泊所」のあり方に対する声を聞きます。

宿場JAPANとしては、国家戦略特区区域委員として、旅館業法改正や特区法に提言を行う一方、今も訪れる外国人の中には、違法とは知らず、予約を行い深夜に誤って他の家を訪ねてドアチャイムを鳴らす、またはたどり着けず

途方に暮れている現状毎日のように見受けられます。

街道に増える投資向けマンションが増える中、居住をしないオーナーが違法と知りながらで宿として運用していくことが予想されます。そこで地域交流や地域マネーを発信する質の高い観光案内所の整備や、違法業者の取締が急務となっています。

「エリア民泊」のモデルを全国に先駆け質の高い交流を促し、宿場町らしい宿泊管理を計画していますので「多文化の共生する宿場づくり」へのより一層のご協力をお願い致します。

◆宿場JAPAN 渡邊崇志

スポーツ編

《東海道品川宿スポーツタウンプロジェクト》

旧東海道を歩く、走る、自転車で行く。目黒川を泳ぐ、Eボートで水辺を楽しむ自然に学ぶ。学校のグラウンドで、ボールを蹴って汗を流す。老若男女が、スポーツを楽しみ、品川宿交流館(クラブハウス)に集い、語り合い、銭湯で疲れた体を癒す。商店街のパブ(居酒屋)で盛り上がり、仲間の輪が広がる。

「まちは、ひとつのスポーツクラ

ブ!!」2020年、東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、「おらがまちのスポーツクラブ」を育て、品川宿ならではの「ゆたかなスポーツライフ」を提案していきます！新年からは、スポーツを楽しむ機会をつくると同時に、地域スポーツ団体と連携し、スポーツタウンの未来(ビジョン)づくりに取り組みます。

◆竹中茂雄

《東海道品川宿FC(サッカー・フットサルクラブ)》

2020年から現在までの15年間にわたり、地元中学生のサッカーの活動を応援する「FC品川サッカースクール」(毎週土曜日、鈴ヶ森中学校)が続いています。2016年4月、新たなチャレンジとして、「サッカー」プラス「フットサル」をプレイできるクラブ「東海道品川宿FC」(代表：堀江新三)を設立しました。品川学園や東海中、八潮学園や荏原一中など、地元の「しながわっこ」たちとともに、練習や試合に励んでいます。

普段は、学校のサッカー部や陸上部、中には吹奏楽部に所属している選手もいます。東京都のリーグ戦(2016シーズン)では、墨田区や江戸川区など、他地域のチームと戦い、2勝1分9敗の戦績でした。初めてのフットサルリーグ参加で、苦しい試合の連続でしたが、

最後まで戦う気持ちを持ってプレイすることができ、リーグ戦を通じて、成長がみられました。社会人TOPチームは、東京都4部リーグ(エントリーリーグ)で優勝を飾り、3部入れ替え戦に向けて活動をしています。

社会人TOPチームの目標は、全国リーグです！(メンバーは、卒業生やその仲間たちです。)

東海道品川宿FCは、まちづくり協議会の長い歴史と、FC品川(中学生支援サッカー事業)の15年の歴史の中で、育まれたスポーツコミュニティです。「このまちに東海道品川宿FCがあって良かった！」と、応援していただけるクラブを目指して、今年も「スポーツを通じたまちづくり」に取り組んでいきたいと思ひます！

◆竹中茂雄

品川宿見聞録 2016年 part.2

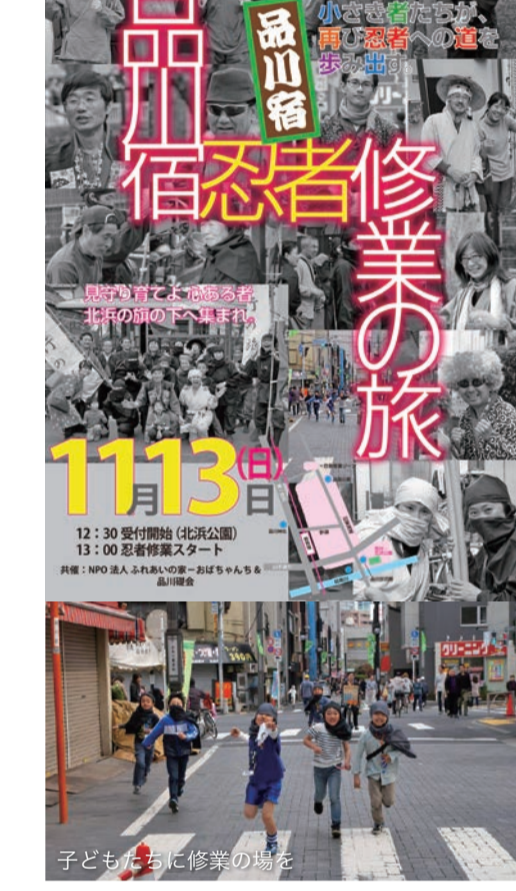
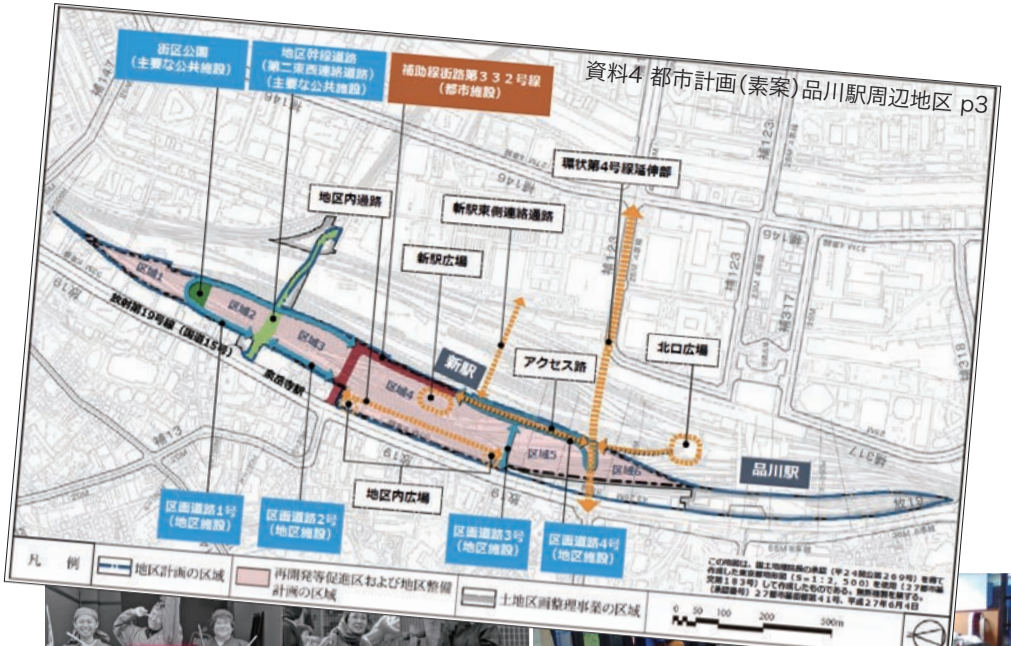
六行会×品川宿

六行会は品川宿でも旧目黒川を境にした「南品川宿」と呼ばれた地域で幕末の頃基礎が芽生えました。ただ、賑わっていた宿場を維持する費用負担や宿役人の仕事は地主達が行っていた為、自分達の家業に専念出来ず、凶年や不慮の災害が発生すると経済的に困窮する事もありました。その影響で宿場運営に支障が出ない様、「宿相続」という名で助け合い資金の積み立てを始めたのが六行会の始まりです。

その後、大正12年には現在の区立品川図書館の前身でもある図書室「荏川文庫」を備えた地域の集会所「荏川町倶楽部」を設立し、名称を「六行会」と命名しました。平成6年には150周年を機に「六行

会ホール」と「荏川倶楽部」を新設致しました。近年は、一般財団法人六行会として、品川区近隣の幼・小・中学校に各種助成事業を中心に活動しております。地域の皆様方との触れ合いの場として六行会ホールで「品川宿六行会寄席」、こども達には「チルドレンズフェスティバル」や「コメディークラウンサーカス」の開催。「しながわ運河まつり」にも模擬店を出店したり、旧東海道で行われている「宿場まつり」や、こども達の「ふる里かるた大会」、「東海道駅伝」への協賛を通じて今後も品川宿とのかかわりを続けていきたいと考えております。

◆一般財団法人六行会 中村健一郎



しながわっこ

《しながわっ子プロジェクト》

9月3日土曜日、4回目となる市民科授業まち歩きを行いました。今回のまち歩きは城南第二小学校と台場小学校が同日開催。二校合

わせて約150人の子供達が旧目黒川や昔の海岸線を古い写真と現在を見比べながら、歩きました。当日は猛暑の中、まちづくり協議会

のメンバーと各校保護者が合同で運営。保護者からは「私達も勉強になった」という声も聞かれました。初の同日開催という事もあ

て、予定の時間をかなりオーバーしてしまうなど、幾つかの問題もありましたが、概ね良い評価を頂いていたように思えます。

◆井上明裕

《第2回品川キッズハロウィンパレード》

孫の保育園のお母さんに「この商店街で子供のハロウィンってできないかしら」という相談から、いつの間に動いてしまっていた。というのがこのキッズハロウィンパレードの始まりです。

旧東海道沿いにある商店街は、江戸時代から変わらない人情あふ

れる温かな笑顔が溢れて、その商店街の人たちが有志が「やるなら手抜きはダメ!」という提案に「やりましょう!」と集まってくれました。

「子供達が笑って、スタッフも笑える、街の楽しみの一つになれば」と、第2回品川キッズハロウ

ンパレードを開催しました。今回は約350人以上の人があり活気のあるものになり大成功しました。ただ一つ車両通行止めができなかった事が一番の大変だったことです。ボランティアスタッフが40人も集まってくれたおかげで、事故無く無事終了でき

◆パリスマドンナ

《子どもたちに修業の場を》

品川宿ではNPO法人ふれあいの家-おばちゃんちと品川礎会が共催して、年に2回子どもたちの忍者修業の旅を行っています。子どもたちが忍者に扮して、町の子ども達も忍者を探しだし修業を積むというイベントです。

このことで子どもはまちの面白さに出会い、まちって素敵だなと

感じてほしい。また大人は修業を求め歩き回ることでできる子どもにやさしい町っていいなと感じてもらいたい。そんな思いで取り組んできました。

おかげさまでたくさんの方々から応援をいただいています。まちのお店やそこかしこに貼られる「忍者に注意」のポスターは、子

どもたちにもまちからの応援を感じさせるものになっています。

さて、この忍者修業の旅をさらに発展させるため、より町の人々の生活に近い修業の場を探しています。店先や家の玄関口で修業をさせていただける方はいませんか。子ども忍者を待っているのではなく、普通に生活していて、た

またま忍者が訪ねてきて合言葉を言ったら修業を受けるというやり方です。そう普段は人々に紛れ生活しているが、本当は忍者の師匠。子どもたちを生活しながら見守っています。子どもたちを待っているのです。(^^)そんな思いを持っている方、ぜひご連絡ください。

◆ふれあいの家-おばちゃんち 宮里和則

《とうきょうご近所道あそび「緋毛氈ロード」》

今年3回目の「緋毛氈ロード」を、11月13日おばちゃんちの「忍者修業の旅」と同日に開催しました。初回の華々しさ、手作りウォータースライダーと防災イベントとコラボした2回目に比べると、今回は少

し静か目にイベント色を薄めて「普段の商店街が今日は子どもと遊んで過ごしやすい!」くらいの雰囲気となりました。チョークでお絵描き、昔あそび、縁台囲碁、芝生の上で絵本を読みのんび

りと、思い思いに過ごしました。来年へ向けて、この事業を品川宿で継続して行っていく担い手の輪を広げたいと思います。年代問わず、子連れもOK! 大人自ら遊びながら運営に関わりたいという

《品川宿わいわいばんごはん》

ご近所さんでおっきな家族、を目標に掲げて2015年11月より月一で始めた「わいわいばんごはん」。おかげさまで、1周年を迎えることができました。この間、ご支援いただきました品川区社会福祉協議会、旧東海道品川宿周辺まちづ

くり協議会、ふれあいの家-おばちゃんち、ならびに参加して下さったみなさまに感謝いたします。

この1年間の参加者内訳は、子どもだけで来た人65人、大人だけで来た人120人(サポーター込み)、親子96組(親104人子ども

143人)、合計432人でした。「子ども食堂」的な活動は増えてきましたが、「わいわいばんごはん」は、みんなが暮らしやすいまち、子どもが自分の住んでいるところを好きだと思えるまち、そのためのつながりづくりのお手伝

《寺子屋塾・人祭会・すまいるさぼーと》

寺子屋塾は、6回目の年明けを迎えることができました。挨拶の出来る子供を!!の思いで引き続き、町の塾として邁進してまいります。

また、よさこい団体の人祭会は、20年目を迎えました。以前より品川区内の学校からの依頼で運動

会用の演舞の指導をしてまいりました。本年度は、浜川小学校・鈴が森小学校・浅間台小学校・城南小学校の指導をいたしました。子供たちが目的意識を持って、集団でやり遂げる喜びを感じられることを目標に指導いたしました。これからも、青少年育成に力を注ぎ

ながらよさこいの活動をしてまいります。

就労継続支援A型事業所の「すまいる・さぼーと品川」は、利用者が11月現在でほぼ定員となり、利用者が一般社会に馴染めるよう訓練しております。

本年度は、運河まつりを始めと

方を大募集しています。そして、品川区内外のモデルともなり、このような道あそびが徐々に都内全域に広がっていくことを願っています。

◆ふれあいの家-おばちゃんち 幾島博子

いが出来ればと考えています。2年目も、大人子どもを問わず、まちでもに生きる仲間の居場所となる様に活動を続けていきますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

◆小手先工房 倉田雪絵

する地域活動のお手伝いを様々させていただきます。

また、深川よさこいでは、運営全般を任せていただくところまで、出来る様になりました。より一層地元の方々の暖かいご支援をお願い致します。

◆平石正弘

まちの景観

《品川宿をとりまく景色～品川駅南地区の街づくり～》

平成27年8月の品川新駅開設に伴う品川駅～田町駅間の再開発の都市計画決定され、品川駅北周辺地区土地区画整理事業は始まりました(神輿だこ平成28年4月版にて報告済み)。品川駅周辺の都市計画で残された京急品川駅周辺の都市計画は28年度中には決定が想定され、29年度区画整理事業が開始される見通しです。それに合わせ京急本線の八つ山踏切解消のための品川～北品川間連続立体交差事業がずれ込んで、今年度末(平成29年2～3月)に発表する動きになってきました。

品川駅南地区の街づくりはいよいよ正念場を迎える新年になってきたと言えます。

このような状況の中、品川浦周辺地区再開発検討区域のうち北街

区(八つ山町会地区)が昨年、都営住宅の再開発の見通しがつかなかったことから活動を止めておりました。しかし東京都が品川区との協議の窓口を作り、地域の動向を受け入れる姿勢が変わってきたことから、北街区においても今後、協議会の設立に向けた活動を開始することになりました。

このような品川駅周辺の再開発が進むにつれ、ここに接する北・南品川地区内のマンション建設が活発になって、良き品川宿の風情が失われ、そして景観が激変するようになってきています。その一つが、旧東海道に並行する旧水辺の石垣の破壊です。重要な景観遺産がまさに失われつつあり、早急な対策が望まれます。

◆新実正義

《街道松》

私達は平成5年以来、東海道筋の公園や建物の前面のスペースに東海道五十七次の各宿場から頂いた松を植樹することで「街道松をつなげる」活動をしています。現在12宿16本、散歩の途中にでも探してみてください。

街道松には由来を書いた高札を立てて来ましたが、去年からこの高札の制作も地方の林業者との交

流、さらに地元の子供たちにつなげるべく、ハレルヤ工房の玉井さんを通じて四万十のヒノキを使い、由緒書きは井上さん(しながわっこプロジェクト長)から城南中学の生徒達にお願いすることにしました。完成した5本の高札はご覧の通り、どれも達筆で個人的、感動的な出来栄でした。

◆長谷山 純

「品川宿アカデミア(仮称)」構想の夜明け

ここ数年で品川宿には暮らし、文化・歴史、芸術、旅などをテーマにした拠点が増えてきました。そういった拠点を活かした品川宿の学び舎「品川宿アカデミア」(仮)づくりを現在妄想中！

《「品川宿史談会」が来春始まる》

品川宿に関心のある街歩きの人々が本当に増えてきます。しかし品川宿からの情報発信の内容は一向に進化していません。一方品川宿は学者、地域史研究者にとって関心の有るテーマになっています。このような状況からもっと宿場文

化の深層を探りたいと「品川宿史談会」が発足します。会の代表・旧東海道品川宿まちづくり協議会新実正義、顧問・品川郷土の会会長 坂本道夫氏。実施内容は(1)地域史研究会・会員による講演(2)学術研究者に

よる講演(3)地域の人達による先祖史・郷土史の講演(3)講演に合わせた企画展(4)以上の記録の保存と公開、講演録の公開

実施案内は、追ってパンフレット、ポスター、各種広報媒体で行い。事前予約制とします。

◆新実正義

《KAIDO books&coffee》

2016年も多くの方と、様々な地域とコラボレーションをし、展示やイベントを実施してきました。長野県飯田市、スペインバスクリン料理展、セルビア パルカン

ミュージック展、琉球泡盛展…。2017年はスイスジュネーブ展、ブラジル展、など国内外問わず精力的に各地と繋がる予定です。また、絵本の読み聞かせの

実施や、各国のお客さんが1日店長をするワールドcafeなども実施予定です。お楽しみに。

◆佐藤亮太

《文化創造中心・うなぎのねどこ》

〜くらし・しごと・しあわせのクリエイティブ空間〜

会員制のイベントのできるコワーキングスペースとして、オープンし2度目の冬を迎えました。会員は16名(卒業生含)、イベント開催は150を超え、定期的な金継・いけばな・盆栽・透明水彩画・お茶会・料理・メイク・石鹸づくり・スリパチ学会などの講座も行っていきます。

- 【講座詳細】
- 金継：本漆を使った伝統技法での修復を学べます
- いけばな：草月流師範によるカジュアル且つ本格華道
- 盆栽：植木職人が庭づくりの視点で盆栽づくりを伝授
- 透明水彩画：ご自分の好きな風景を描くデモンストレーション付き
- お茶会：キモノ時間ソレカラとコラボ。遠州流準師範による茶道の心を楽しむ
- スリパチ学会：まちの地形と歴史を読み込む座学 外国語、クラフト系など新しい講座会員募集中です。

《「街道文庫・街道歩き相談承り処」この1年とこれから》

街道文庫では、現在「グラフしながわ」をテキストとして、『語る会』とその中の『イラスト道中記を歩く』を連続開催しています。「グラフしながわ」は、1988年10月から2007年3月まで14年間で全28巻が発行されました。各号の半分は、「むかしむかし」「祭り」「銭湯」「散歩」「学校」などの特集記事で、品川の歴史と現在を多岐にわたるテーマを様々な切り口で紹介してくれます。連載で、品川人物史(星一や江見水蔭など)、当時活躍中の芸術家(安田祥子さんや鳥山玲さんなど)や各種団体(品川郷土の会や勸六行会など)を紹介しています。「グラフしながわ」は、品川のことなら何でもわかる「品川全書」とも言える内容で、品川に生まれ育った方にも、品川に転入してきた方にも是非知ってもらいたいものです。年内に15巻まで終了し、2017年も継続実施します。

「品川宿のあれこれ」として、品川宿に関する謎やより深く知りたいテーマで雑誌も行っていきます。その一環として「江戸名所図

会の品川駅には釜屋が描かれている」、「(大)東海寺透視絵図」も作成しました。2017年は、明治・大正・昭和初期に品川を通った画家や漫画家の道中記の紹介と様々な古地図から江戸と品川の歴史を遊び感覚で掘り下げるワークショップの実施を予定しています。

「品川の古道を歩く会」として、品川道探索の歩き旅で品川・府中間を往復で歩きました。2017年は品川の古道歩きを継続して、品川の古道ウォーキングマップを作製することを目指しています。

「江戸東京からの街道歩き」シリーズでは、地図を作成して歩く講座として成田街道や水戸街道も歩きました。2017年は、品川からの大山詣でや成田詣でを再現して、参詣路のウォーキングマップ作りを考えています。

「街道を歩いて千年桜・一本桜を観る会」では、青梅街道・塩山付近のしだれ桜と身延道のしだれ桜を見学しました。2017年も桜開花情報を参考に行き先を考えます。

◆街道文庫 田中義巳



品川宿史談会(来春公開企画(仮))アトローの福太郎新一お宿場を作ったアトロー一連講演(国立歴史民族博物館名誉教授・高橋 敦) 絵:近世水戸伝 競力富五郎 四代目中村芝翫 (文久元年:1861年)



〜キモノ時間 ソレカラ〜 Photo by makoto tochikubo

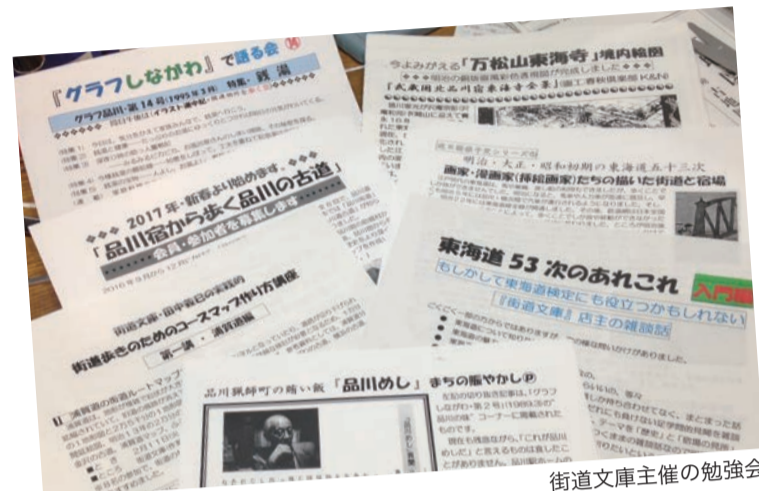


うなぎのねどこ



KAIDO books&coffee

品川宿 みらい見聞録



街道文庫主催の勉強会

品川宿の新しい風

《品川宿を着物姿の人でいっぱい〜キモノ時間 ソレカラ〜》

品川宿に暮らして三年、旧東海道を着物で歩くと、周りの人が笑顔で声をかけてくれます。宿場町の情緒が残る通りには、着物姿がスツと馴染みます。着物には一枚ずつ物語があります。筆筒の中で眠っている、おばあちゃんやお母さんの思い。品川宿を舞台に日の

目を浴びてほしい。通りを着物姿の人でいっぱいになりたい―着物を気軽に着られる場をつくろうと、春に「キモノ時間 ソレカラ」を開きました。

着付けや立振舞いのレッスン、着物レンタル、着物相談も行っていきます。レンタル用の着物は、周

りからの寄付がほとんど。着物を大切にしている町の方々の気持ちが集まりました。その他、半襟付けや髪結い講座、着物と品川宿に関わる様々なイベントを企画しています。着物に包まれるやさしい時間を、あなたやあなたの大切な人に。気軽に遊びに来て下さいね。

《レンタルスペース松本 OPEN》

北馬場参道通り商店街では、約30年間締まっていた「居酒屋松本」を借り受け、今年度のチャレンジマート事業助成で「レンタルスペース松本」として9月1日にオープンしました。

様々な商店街でのレンタルス

ペースの試みをみている、成功事例が少なく、手探り状態の中での立ち上げでしたが、建物のもつ力、魅力による反響に驚いています。

山形の八百屋さん、朝、昼ご飯の販売、ヨガ教室などのレギュラー利用の他、会議、セミナー、

などにも使われています。年末年始が近づき宴会の開催も増えてきました。宴会時の持ち込みは自由ですが、商店街のお店と連携し、利用者の希望に合わせたオードブル、お酒も用意しています。皆さんも是非お気軽にご活用下さい。

◆間十間計画工房 田村賢治

《Green By》

色々な行動や感動や多様な使い方ができるスペースを、常々欲しいと思っていてGreen Byを北品川に作らせていただきました。なんだかモヤモヤしてアクションを起こしたいけれど、やり方もよくわからない、しかもそのモヤモヤは効果があるのかもわからない、なんて話をよく聞きます。なので、GreenByはその実験場の役目も担います。みんなで悩んで何か物を作ってみても良いですし、みんなで何か人が集まるコン

テンツを考えてみる、楽しいイベントをやってみる、なんてことができるプラットフォームを目指しています。

平常運転は変わった緑を提案するGreen Byで、アートの展覧会期中は Art Byになり、家具展の時はFurniture By、他にもArch ByやFood By なんかに変わります。

Kitashinagawa Byで何か発信できればとても嬉しいです。

◆尾形良樹+SALT

《ウマハナ-和の花壇づくりやっています♪》

ウマハナは、新馬場駅南口にて、「ひと・まち・歴史・地球」をつなげる和の花壇づくりを行っています。日本の在来種や和風の色彩を意識して花壇をつくることで、東海道品川宿の歴史や文化を感じてもらおうことが目標です。

今年は、百人百花募金にご協力いただいたおかげで、ナデシコやフウチソウなどで、駅前を彩ることができました。

秋には、パルシステム東京さまからご支援いただき、ぼろぼろだった花壇のペンキ塗り替えが実現。大人から子供までが参加し、見違えるように綺麗になりました！馬や桜、銀杏、柳の絵も加わり、見て楽しい花壇になりつつあります。

毎週土曜10時から。マイペースでやっています。ぜひお気軽に遊びにきて下さいね。

◆餅田佑子

《品川宿いどばた》

新馬場駅近くに、小さな子どもとママのための憩いの場「品川宿いどばた」を今年月にオープン。小さな民家の扉をガラガラと開けると、中ではママと子供達の笑顔が溢れています。

品川は区外から引っ越してくる家族も多いです。知らない場所で子育てをすると、必要な情報、知りたい情報を得るのも難しい。はじめての子育てで不安を抱えている方もいる。子育てをする人の架け橋になりたいと思い活動を続け

ています。品川宿いどばたでは、0歳から参加できる講座「ファーストサイン」「オムツなし育児」やママ向けの美と健康講座「甘酒作り」「お灸体験」などの様々な講座を開いています。

週2日(木)(金)は親子でゆっくりご飯が食べられる「いどばた食堂」も開店。ここで偶然出会ったママ同士が交流をもち、仲良くなっていく姿を見るのがとても嬉しいです。

◆ママかつ代表 杉山ゆみえ



品川宿いどばた



レンタルスペース松本 OPEN Photo by 藤 敦之



Green By Photo by YASAKSA Mariko